3 南北朝・室町・安土桃山時代

八代市の文化財

八代のあゆみ

南北朝時代	1334	名和義高が八代荘の領主となる。④
	1336	**朝廷が南朝と北朝に分かれる。**
	1338	**足利氏が室町幕府をひらく。**
	1383	懐良親王が病死し、墓が宮地(妙見町)につくられる。①
	1390	征西大将軍良成親王が、征西府・御所をおく。(奈良木町) 悟真寺がつくられる。(妙見町)②
	1392	**南北朝が合体する。**
室町時代	1409	日奈久温泉が発見される。
	1419	日奈久温泉神社が作られる。③
	1467	**応仁の乱がおこる。**
	1502	上土城がつくられる。(千丁町)
	1504	相良長毎が八代を支配する。(古麓町)⑤
	1505	上土城城主の岩崎忠久がい草を植える。(千丁町)⑥
	1534	鷹峰城(古麓城の一部)がつくられる。(古麓町)
	1573	**室町幕府がほろびる。**
安土桃山時代	1587	豊臣秀吉が島津氏を攻めるために八代に滞在する。(妙見町)
	1588	小西行長が八代を支配し、麦島に新しい城(麦島城)をつくる。(古城町)⑨
	1600	**関ヶ原の戦いがおこる。**小西氏は滅亡し、八代は加藤清正の領地となる。 加藤清正が矢壁新左衛門に手すき和紙を作らせる。⑪

室町時代

後醍醐天皇による「建武の新政」と足利尊氏による室町幕府が対立しました。後醍醐天皇に仕えた名和義高は、八代の古麓に山城を築き、九州南朝方の拠点となりました。

市指定

後醍醐天皇の皇子を祀る ①征西大将軍懐良親王の墓

市指定史跡　妙見町

宝篋印塔
(市指定文化財)

懐良親王は、南朝方の後醍醐天皇の第16皇子で、征西大将軍として九州各地を転戦しました。弘和3年(1383)福岡県八女郡矢部村で亡くなり、遺骨がこの地に運ばれたといわれています。明治11年(1878)宮内省から、懐良親王の墓と決定され、宮内庁が管理しています。

墓地内には、懐良親王が母親の31回忌にあたって作ったといわれる宝篋印塔が安置されています。

市指定

懐良親王の菩提寺 ②悟真寺

市指定文化財　妙見町

懐良親王の菩提寺として建てられたお寺で、もとはお墓の側にありました。御霊殿には、懐良親王の像や両親の位牌が祀られています。御霊殿は、大正10年(1921)古寺社建築に造詣の深い伊藤忠太博士の設計により、南北朝当時の建築様式にならって建築されました。

河童とおしょうさん

昔、悟真寺のおしょうさんにいたずらをした河童が、おしょうさんにポキリと手を取られてしまいました。困った河童は、女の人に化けて何度もおしょうさんのところへ通いました。河童がかわいそうになったおしょうさんは、河童に手を返しましたがその代わり、二度と人にいたずらしないと約束させました。それ以来、悟真寺の下を流れる川でおぼれる子どもはいなくなったそうです。この伝説にちなんで旧暦5月5日に川祭りが行われるようになりました。(現在は6月第2土曜日)

市指定

日奈久温泉の守り神 ③日奈久温泉神社

市指定文化財　日奈久上西町

日奈久温泉は、応永16年(1409)に浜田六郎が父の刀傷が早く治るように神に祈り、発見したという伝説があり、今の本湯のあたりで最初に温泉が湧き出したといわれています。温泉神社は、応永26年(1419)に市杵島姫命を湯の神様として祀ったのが始まりです。

市指定

名和氏が築いた山城 ④古麓城跡

市指定史跡　古麓町

名和氏の築いた山城は、五つの峰に飯盛城、丸山城、鞍掛城、勝尾城、八丁嶽城の山城からなっており、あわせて古麓城と呼んでいます。その後、城主となった相良氏により、鷹峰城と新城が新たに築かれ、南北朝から戦国時代末にかけて約250年間、八代城と呼ばれました。山の下には城下町が作られ、商人・職人の町、港町として賑わいました。

市指定

古麓城最後の城主 ⑤相良義陽の墓

市指定文化財　古麓町

約150年続いた名和氏の後、球磨郡をおさめていた相良氏が、永正元年(1504)、名和氏を退去させ、古麓城に入りました。相良氏は約80年間八代を支配しましたが、天正9年(1581)相良義陽のとき、薩摩の島津氏の勢力に屈し、豊野の響野原(現在の宇城市豊野町)で阿蘇の甲斐宗運と戦って、戦死しました。

市指定

い草の神様を祀る神社 ⑥上土城跡(岩崎神社)

市指定史跡　千丁町太牟田

上土城は、名和氏の家臣蜂須賀氏が文亀元年(1502)に築いた城で、その後永正元年(1504)相良氏の岩崎主馬忠久が城主となりました。岩崎主馬は、領民のため、い草を栽培させたといわれています。い草は、現在、日本一の生産量を誇るようになり、岩崎主馬はい草の神様といわれ、上土城跡に岩崎神社を建てて祀られています。

鮒取り神事で有名な神社 ⑦印鑰神社

鏡町鏡村

この地は、古代、税金として納められた米を集める倉があったところと伝えられ、大切な倉の印と鑰をまつっています。祭神の蘇我石川宿祢が当地を訪れた時、若者たちが鏡が池で鮒をとって差し上げたという故事にならい、現在でも鮒取り神事が行われています。

安土・桃山時代

ある小西行長が、宇土・益城・八代・天草の支配をまかされました。相良氏、島津氏が八代を治めた後、天正16年(1588)、豊臣秀吉の有力な家臣で

市指定

地震で壊れた幻の城 ⑨麦島城跡

市指定史跡　古城町

海を行き来する技術にすぐれていた小西行長は、山城の古麓城を出て海に近い球磨川河口の麦島に新しい城を築きました。

ちょうど、この頃の世の中は、自然の地形を利用して攻めにくくした山城から、平地に高い石垣を積んで、立派な建物をそなえた平城へと、城の作り方が変わる時期でした。麦島城は、九州でもっとも早い時期に作られた平城のひとつです。麦島城の石垣は、真っ白い石灰岩で作られ、小天守屋根には金箔を貼った瓦が輝いていました。

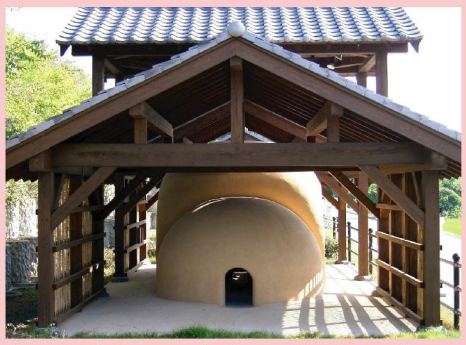
慶長5年(1600)、関ヶ原合戦で西軍が負けると、行長は処刑され、麦島城は加藤清正の治めるところとなりました。

元和元年(1615)、江戸幕府は一藩に城は一つとする「一国一城令」を出しました。熊本でも、熊本城以外の城は取り壊されましたが、麦島城は特別に残されました。それは、この場所が、見晴らしや交通の便がよく、防衛上の重要拠点だったからといわれています。

県指定

お城の瓦を作った窯 ⑩平山瓦窯跡

県指定史跡　平山新町



16世紀終わりから17世紀の初めの頃に作られた瓦を焼くための窯で、外観が「だるま」に似ていることから、「だるま窯」と呼ばれています。この窯で、麦島城の瓦を焼いたと考えられています。この一帯は、江戸時代の高田焼の産地で、近くには高田焼の平山窯跡(県指定史跡)があります。

八代で紙漉きをはじめた職人 ⑪矢壁新左衛門の碑

妙見町

慶長5年(1600)、加藤清正が筑後から呼び寄せた矢壁新左衛門に手漉き和紙を作らせたのが、宮地手漉き和紙の始まりといわれています。

この地域のきれいな水が、和紙作りに適しており、職人たちの努力によって上質な和紙が生産されました。最盛期には100人以上の紙漉きの職人がいたといいます。現在紙漉きをしているのは1人だけです。

豊臣秀吉とルイス・フロイス

相良氏のあと、八代を治めた島津氏ですが、豊臣秀吉の九州平定によって、八代から退却することになります。天正15年(1587)のことです。このとき、八代・古麓城に滞在した豊臣秀吉は、献上された高田みかんを味わったり、キリスト教布教のために来日していた外国人宣教師と面会したりしました。そのうちの1人、ポルトガル人宣教師ルイス・フロイスは当時の八代をこう描写しています。「この地がいかに美しく清らかで、また優雅で豊饒であるかは容易に説明できるものではない。まるで、日本の自然は、そこに鮮やかな技巧による緞帳を張ったかのようであり、いくつもの美しい川が流れ、多数の岩魚が満ちあふれている・・・。」このころ八代には、徳淵の港を中心に、国内外はもとより、琉球や中国から船がやってきて、交易が行われ、たいへん繁栄していました。

県指定

県内最古の鰐口 ⑧大門観音堂・大門薬師堂の鰐口

県指定重要文化財　坂本町葉木

大門薬師堂の鰐口

大門観音堂の鰐口

鰐口は、神社の社殿やお堂などに掛けられる金属製の音響具で、鰐の口のように広く開いた形をしています。観音堂の鰐口(幅30.0㎝、銅製)は、正平18年(1363)、牛深(現天草市)の久玉神社へ奉納されたもの。薬師堂の鰐口(幅23.4㎝、銅製)は、永徳元年(1381)大隅国筒羽野村(現鹿児島県湧水町)妙楽寺に奉納されたもの。のちに、相良氏が八代を支配した時代に大門に持ち込まれたものとみられます。観音堂の鰐口は県内で最古、薬師堂の鰐口は4番目に古い貴重なものです。

八代市教育研究所発行「<小学校6年生>史跡めぐりやつしろ」をもとに作成しました。　八代市教育委員会　文化課